

## 菰野道の概要

東海道に合流して江戸へ向かった。 主の参勤交代もこの菰野道を通って四日市に至り、 の東北側に高札場や代官所の陣屋があった。 つくると、 町交差点は、 菰野道は四日市市の北町交差点から出発し、 1 6 0 0 0 四日市宿との往来が頻繁になり、 かつては東海道四日市宿の中心で、 菰野城に土方氏が入城し、 11 + 口 の街道である。 城下町を 菰野藩 慶長5 

**へ歩き、** 味わいながら散策できる。跡も多く、昔の面影がより へ進む。 も多く、昔の面影がよく残る落ち着いた町並み町の中で街道は細かく入り組みながら進むが、歩き、高角橋から支流の矢合川沿いに桜町へ。 四日市からの菰野道は、 前半は三滝川の南岸の堤防をひたすら西からの菰野道は、ほとんど川に沿って山の た町並みを 史こ

野に立ち寄り、8日間過ごした。その帰途に渡ったは、天明8年(1788)7月、西国遊歴の途中菰後期の文人で日本の洋画の創始者とされる司馬江漢桜町から金渓川を渡って菰野町へ至る。江戸時代

地帯で、 ちたる跡は首も立たず』と教えたり、 向ふの土手の後ろより人出でて云ふ、 「佐倉一色村と云う処あり、 金渓川周辺の様子を、日記に次のように記している。 田の畦を四五丁ばかり行く。」この辺りは現在も田園 と云う。 のどかな道が続いている。 幅八九間あり、 此処に御滝河の末(金渓 手と手を組んで渡るに、 夫より路無し、 『其の橋の落

地となっている。 虫の被害にあって枯れた。 より次々と伐採され、 その松並木も第二次大戦後、 な松並木があった。道行く旅人はこの松並木の前で は江戸時代、 しばらく立ちどまり、 巡見道とも交差する西久保の辻から菰野城下まで -や銀行、 「一万石のご城下」にふさわしい立派 病院などが建ち並ぶ現代的な市街村れた。今は国道47号沿いに大手のれ、最後の一本も昭和53年に松喰 見とれるほどだったという。 道路改修や拡幅などに

まって、 通りは、 も多かった。 鈴鹿山麓にある湯の山温泉は、 、あとは湯の山温泉への道が続いた。菰野町の時代に高札場があった札の辻で菰野道は終点となりは、城下町の落ち着いた風情を感じさせる。江 街道は、 かつての城下町東町筋で、古い屋号の店が残る道は、東町口から国道を離れて東町商店街に入 江戸時代から湯治遊山を楽しみに訪れる人 菰野山の景勝とも相

戸















